

教育臨床・特別支援教育プロジェクト報告

ー心理・教育臨床活動のまとめ（平成19年2月～平成20年1月）ー

加藤 義 男*

(2008年3月3日受理)

I. スタッフ

平成19年度研究員は、専任の加藤義男（附属教育実践総合センター）のほかに、特別支援教育プロジェクト鎌田文聰（特別支援教育科）宮崎眞（特別支援教育科）、名古屋恒彦（特別支援教育科）、田村英子（附属特別支援学校）、横澤修（附属特別支援学校）、佐藤英子（附属特別支援学校）の7名である。外部からの研究協力者として臨床心理士、教員、大学院生等16名（教育臨床プロジェクト4名、特別支援教育プロジェクト12名）を委嘱した。

また、地域連携事業にかかる非常勤職員（心理相談員）として、前年度に引き続き阿部幸成（元養護学校講師、塾講師）を委嘱した。

II. 相談・支援活動

附属教育実践総合センター「心理・教育相談室」における相談・支援活動について報告する。個別相談、コンサルテーションは加藤が中心となって、心理相談員の協力も得て実施したものであり、グループ支援活動や相談会等は加藤が責任者となって、研究協力者、心理相談員の協力を得て実施したものである。

(1) 個別相談

平成19年2月から平成20年1月までの個別相談の来談者は79人であり、その内訳は次のとおりである。①以前からの継続が46人（58%）、平成19

年度新規が33人（42%）であった。②年齢は4歳から20歳。③主となる問題の内訳は、「不登校」、「発達障害等（ADHD及びその疑い、自閉症・アスペルガー症候群及びその疑い、LD及びその疑い、発達の遅れ等）」「その他（かん黙、対人不安、チック等）」であった。

月ごとの相談者実数及び相談延べ実施回数を表1.に示した。来談者79人に対して、延べ104回の相談を実施した。一回の相談時間は1時間～1時間半程度であり、行動観察、心理テストの実施、プレイセラピー、母親面接、カウンセリング等を行った。

(2) コンサルテーション

18件のコンサルテーションを実施した。その内訳は、幼稚園・保育園、小学校、中学校、その他に出向いての事例検討中心のコンサルテーション実施及び、教育学部内相談室において教員等との事例検討のコンサルテーションを実施した。

(3) 不登校児への支援活動（「みんなでチャレンジ」の取り組み）

不登校児支援の会「みんなでチャレンジ」において、不登校児（別室登校含む）への支援活動を実施した。対象児は11人（高校1人、中学9人、小学1人）。支援スタッフは10人（大学院生5人、学部生3人、心理相談員1人、及び加藤）である。活動状況は次のとおりである。

・グループ活動…9回（月一回、土曜日午前中）
実施し、参加児は延べ62人であった。

(4) ADHD またはその疑いを持つ児童への支援

*岩手大学教育学部附属教育実践総合センター

表1 個別相談の実施状況（平成19年2月～平成20年1月）

月	月ごとの相談者実数	相談延べ実施回数
2月	7人(4人)	9回
3月	17人(7人)	17回
4月	8人(2人)	8回
5月	10人(3人)	11回
6月	8人(3人)	8回
7月	8人(3人)	11回
8月	8人(2人)	8回
9月	3人(1人)	3回
10月	8人(4人)	9回
11月	7人(2人)	8回
12月	5人(2人)	6回
1月	4人(0人)	6回
計	93人(33人)	104回

※（ ）内はその内の新規相談者の数を示す。
 ※ 相談者実数の中に、電話相談5件を含む。

活動（「わっこの会」の取り組み）

「わっこの会」（「いわてADHDを考える会」の通称。加藤は世話人）として次の活動を行った。

- ①親の集い…8回（月一回、平日の午前中）実施した。参加者は延べ23人。親同士の意見交換・情報交換やグループカウンセリングを行った。
- (5) 高機能広汎性発達障害児の支援活動（「エブリの会」の取り組み）

「エブリの会」（「いわて高機能広汎性発達障害児・者を考える会」の通称。加藤は世話人）として次の活動を行った。

- ①エブリ教室…10回（月一回、土曜日）実施した。参加児童は6人（すべて小学生男子）で、延べ参加総数は59人である。スタッフは12人（教育学部大学院生、養護学校教員等いずれも附属教育実践総合センター研究協力者）。
- ②エブリ談話室…中学生以上の高機能広汎性発達障害者をもつ親の話し合いの場として実施した。8回（月一回、平日の午前中）実施した。延べ参加総数は18人であった。
- ③エブリ親の集い…幼児及び小学生の高機能広汎性発達障害児を持つ親の話し合いの場として実施した。6回（月一回、平日の午前中）

表2. グループ支援活動

名称	年間実施回数（19.2～20.1）	参加者総数
みんなでチャレンジ	9	62
エブリ教室	10	59
エブリクラブ	4	28
白馬塾	12	78
わっこの会	8	23
エブリ親の集い	6	19
エブリ談話室	8	18

実施した。延べ参加総数は19人であった。

- ④エブリクラブ…「エブリ教室」修了生の集まりとして4回実施し、延べ参加者総数は28人。グループ支援活動の一覧を表2. に示した。

Ⅲ. 教育学部地域連携事業としての取り組み

教育学部地域連携事業「学校不適応児への教育的支援事業」について、本プロジェクトが中心となって取り組んだ。取り組みの主な内容は、次のとおりである。

- (1)心理相談スタッフとして、1名の非常勤職員(心理相談員)を依嘱した。

(2)事業

加藤及び研究員、心理相談員が中心となって以下の事業に取り組んだ。

- ①個別相談…「心理・教育相談室」における相談・支援活動(Ⅱ参照)
- ②市町村教育委員会との共同事業による研修事業
- ・久慈市教育委員会共同事業による特別支援教育研修会
 - 10月19日 講演会(参加者40人)
 - 1月11日 研究発表会分科会(参加者50人)

Ⅳ. 外部機関との連携・協力

- (1) 行政等関連委員会の委員として参加し、地域との連携・協力を図った。加藤による主なものは、「盛岡市特別支援教育支援チーム委員会」、「県発達障害者支援体制整備検討委員会・広域特別支援連携協議会」、「県障害児療育のあり方検討委員会」等である。
- (2) スクールカウンセラーとして参加し、学校現場での教育相談に従事した。
- 附属中学校 相談8回、教員との情報交換会2回
 - 附属小学校 相談・情報交換5回
 - 附属幼稚園 観察4回、教員との相談会4回